

## インプラント埋入手術見学会 報告

日時：平成27年11月21日（土）

場所：CICクリニカルインプラントセンター／高崎市



笛木 貴（群馬県）

平成27年11月21日（土）、一般社団法人日本インプラント臨床研究会が主催する「2015年度 日本口腔インプラント学会 認定講習会」の一環として、インプラント埋入手術見学会が開催された。

今回のインプラント埋入手術見学会は、前会長の井汲憲治先生が担当し、田中譲治会長、保田亜起講習会委員会委員長ご同席のもと、群馬県高崎市にあるCICクリニカルインプラントセンターにて開催された。

今回のインプラント埋入手術見学会には、平成27年度認定講習会 受講生33名のうち20名が全国から集まって参加した。

今回のインプラント埋入手術見学会に先立って、井汲先生によるインプラント埋入に関する講義、サージカルガイドに関する講義、CICの宮石歯科衛生士による手術器具の滅菌管理、患者の術前・術中・

術後管理に関する講義が行われ、インプラント埋入手術見学に際しての予備知識の講義が行われた。

一般的なインプラント埋入手術見学会では、受講生が手術室に立ち会って、手術を直接見学する方式が多いが、この方式は見学位置によって術野が見えない欠点がある。CICでは映像・音声設備が整っているため、受講生は講義室にいたまま手術室からの映像と音声をライブで確認できるようになっている。したがって受講生全員が同じオペの進行具合を共有してすることが可能になっている。

今回の症例は、58歳男性、上顎両側臼歯部 4-7 欠損に対してサージカルガイドを使用して、上顎両側 4・6 に計4本の埋入手術の予定。

サージカルガイドを使用する場合の埋入手術は、フラップレスで行うことが多いが、本症例においては、埋入部の骨幅が頬側において1mm程度しか余



裕がないことが事前に分かっていた。そこで、埋入状態の確認と急遽のGBRに対応できるように、本症例においては当初から頬側にフラップを起こす計画にて施術を行う。

全身疾患による術後感染の懸念から、本症例では完全閉鎖2回法を選択。サージカルガイド装着後のドリリング時に口蓋側のフラップを損傷させないため、サージカルガイドを介したインプラント埋入時に口蓋側フラップが干渉しないように、近遠心切開は歯槽頂より若干口蓋側にて切開。サージカルガイド装着時の干渉にならないよう、頬側フラップは縦切開とともに全層弁にて十分剥離を行い、頬粘膜に一時的に縫合固定する。

術前に試適して十分安定することが確認できている歯牙支持型サージカルガイドを装着。内部注水タイプのバーを使用することで、骨のオーバーヒートの懸念が緩和される。計画上指定されたバーにてドリリングを行いインプラントを埋入した。

切開開始⇒埋入⇒縫合完了まで63分で完了した。決して慌てることなく、ムダのない動きで淡々とオペが進んでいる、いつの間にかオペが終わっている。そう感じたオペだった。

術中・術後においても受講生から活発な質問があり、受講生にとっても十分手ごたえのある見学会であったと思う。

## 日本インプラント臨床研究会・忘年会 インプラントバカと 呼ばれて…

日時：平成26年12月5日（土）  
場所：瓢庵（ひさこあん）東京浅草

ポリデンタルクリニック  
三堀 陽介（神奈川県）



例年通り平成26年12月の第一土曜日に、当会の締め行儀である忘年会が浅草、瓢庵にて行われました。私は2009年度に入会させていただき、総務委員として微力ながら忘年会や各種行事のお手伝いをさせていただき、最中、「インプラントバカ認定証」の表彰式で司会進行の笹谷専務より突然私の名前を呼んでいただき、田中会長より賞を拝受いたしました。

正直申しますと寝耳に水で、一昨年受賞された岩野先生、歴代受賞の先生方が走馬燈の様に駆け巡りバック状態でした。本当に私の様な若輩者が、このような貴重なものを拝受してしまっ

て良いものなのか？そんな思いで一杯でした。

41年の歴史を誇る日本インプラント臨床研究会に所属させていただき、インプラントバカと呼んでいただき、これほど嬉しいことはありません。また私事で恐縮ですが2016年は診療所開業という節目でもありました。

自身の診療室にこの盾をかかげ、今後その名に恥じぬよう日々精進すると共に、会の飛躍と発展に寄与して至る所存です。

日頃より田中会長、笹谷専務ならびに多くの会員の先生方にお力添えいただき感謝の気持ちで一杯です。